

研究主題

自立する児童・生徒の育成 ～自尊感情と他者理解の態度を育む人権教育の推進～



はじめに

校長 川元 泰史

本校は、青ヶ島という日本一人口の少ない自治体にある唯一の学校で、児童・生徒数も東京都で最も少ない学校です。島には高等学校がないため、中学校卒業後は進学のため親元を離れ、一人で生活をしていかなければなりません。このため本校では、施設一体型小中併設校という強みを生かし、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を行い、小中学校共通の学校教育目標である「自立」に向け、教育活動を行っています。しかしながら現実には、多くても3名という各学級において、集団の中で切磋琢磨する経験が少なく、大人数の中での発表機会や成功体験も少ないため、自分自身に自信がもてず自己肯定感も低い傾向にあります。人口の最も少ない島という社会の中で、他者を理解し、思いやる心情を十分に育んでいくことが本校の課題です。このような現状から、児童・生徒一人一人に自己肯定感を高め、権利と義務、自由と責任についての認識を深めさせ、公共心をもち、他者を思いやる自立した児童・生徒を育てることが急務であるため人権教育を調査研究のテーマとし、推進してまいりました。

本研究に御指導、御支援いただきました東京都教育委員会、青ヶ島村教育委員会、講師の皆様、御協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

青ヶ島村立青ヶ島小学校 青ヶ島村立青ヶ島中学校

〒100-1701 東京都青ヶ島村無番地

TEL 04996-9-0121・0122 FAX 04996-9-0107

授業研究

小学校 特別活動 全学年(2・3・6年) 5名

全校児童による合同学級会



学級活動(1)

議題「児童集会を成功させよう」

<小規模校の実態から生まれた異学年合同の学級活動のねらい>

- ①自分以外の多様な考え方や価値観に触れる機会を増やす。
- ②他学年の児童に自分の考えを認められたり、上級生と下級生同士でそれぞれの良さを認め合ったりする場面を作る。
- ③集団行動上の責任や達成感等をもたせる。
- ④司会を立てた計画的な話し合い活動を経験させる。

<人権教育の視点>

【技能的側面】

児童集会を成功させようという共通の目的を持った異学年間での話し合い活動を通して、自分の考えを相手に伝えたり、他者の意見を理解したりする中で、合意形成を図り意思決定する能力を育てる。

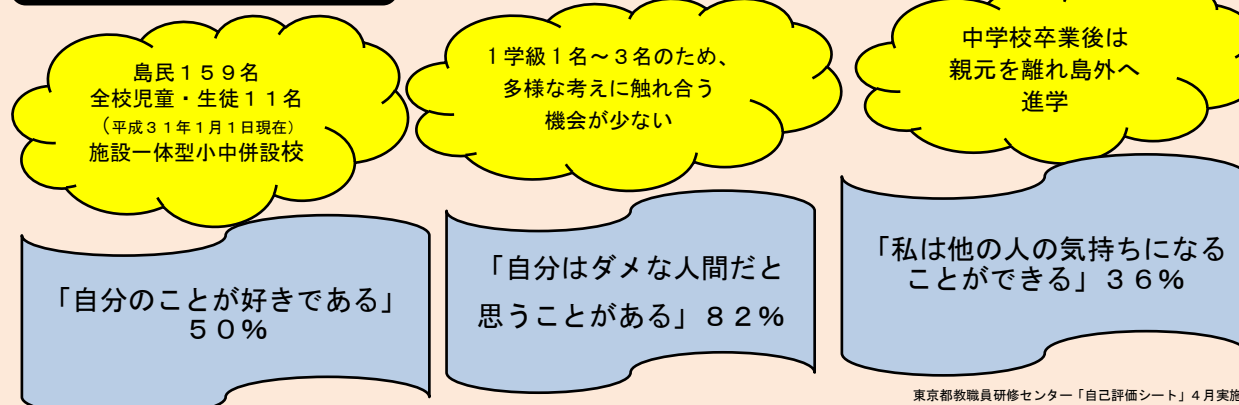
<活動内容>

提案者の要望である「他の遊びと組み合わせたジェスチャーゲーム」についてどのように工夫すれば、みんなが楽しめるゲームになるか話し合い、合意形成を目指した。

<成果>

各学級1~2名という少人数という利点を生かし学年を越えた合同学級会を継続的に行って来た。その中で下級生・上級生の多様な考えに触れたり、集団の中で自信をもって発言したりと、自尊心の高まりや他者理解の深まりが見られた。

児童・生徒を取り巻く環境と実態



研究構想図

本校の教育目標

自立

研究主題

自立する児童・生徒の育成
~自尊感情と他者理解の態度を育む人権教育の推進~

●目指す児童・生徒像●

- 自分自身を大切にするとともに、他の人の立場や気持ちを考えることができる
- 人権課題に対して深く考え、適切な行動をすることができる



中学校 技術・家庭科(技術分野) 第2学年 1名

1名学級におけるICTを活用した他者理解

情報通信ネットワークと情報モラル
人権課題「インターネットによる人権侵害」

<題材のねらい>

自他の感じ方の違いに気付くとともに、SNS利用の注意事項について理解できるようにする。

<人権教育の視点>

【価値的・態度的側面】

インターネット上の人権侵害の状況を理解し、SNSを利用したコミュニケーションに関する問題点について考えるを通して、自他の人権を尊重する態度を育てる。

<活動内容>

「スマホにひそむ危険疑似体験アプリ」を活用し、SNS利用の中で想定されるトラブルを体験させた。また、教職員を対象としたアンケートの結果や「SNS東京ノート」(平成30年:東京都教育委員会)を活用することで、多様な意見と出会い、個人によって同じ言葉でも感じ方や解釈の仕方が違うことを確認し、情報の発信者としての責任とマナーについて考えた。

<成果>

自他の考え方や感じ方の違いに気づき、SNSのトラブル回避のためにどのような配慮をして使用すればよいかを探ることができた。



小学校 総合的な学習の時間 第6学年 2名

「世界に目を向けて~世界の人々と共に生きる~」

<人権教育の視点>(人権課題 外国人)日本に暮らす外国人の思いや外国人への偏見や差別を知り、互いの文化等を尊重しようとする態度を身に付ける。

<活動内容>空港にある外国人向けのチラシや、日本に転校してきた外国人児童のドラマ、在日外国人が困っていることについてのインタビュー動画を見て、来校予定の外国人講師のもてなしを考え実践した。

中学校 音楽科 第3学年 3名

「鑑賞 組曲『展覧会の絵』」

<人権教育の視点>音楽を聴いて感じたことを共有し、多様な感じ方があることや、音楽を聴いて美しいと感じることができる豊かな情操を養う。

<活動内容>曲を聴いた生徒たちの感想を可視化し、共有した。互いの多様な感じ方を認め合い、意見交換を通して、新たな鑑賞の視点に気づき、曲の美しさをより深く味わった。

中学校 保健体育科 全学年 6名

「陸上競技 短距離走・リレー」

<人権教育の視点>運動における競争や協力の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たそうとする態度を育てる。

<活動内容>スピードを生かしたバトンパスを行うことでタイムをより縮めることを目指した。単元を通じたペア学習により、互いの体力差を認め、長所を生かしたバトンパスの工夫を行った。

中学校 社会科 第2学年 1名

「欧米諸国の世界進出:資本主義経済の課題」

<人権教育の視点>資本主義経済を社会主義の視点から多面的・多角的に考察することで、市民革命で成立した「自由・平等」についての理解を深める。

<活動内容>資本主義と社会主義の経済構造や政治体制を図表に整理させた。資本主義と社会主義における「自由・平等」の違いを知り、現代における社会の在り方について考えを深めた。

学校生活

小学校

中学校

連携を生かした人権教育の取組

くろしお会活動（くろしお会：小中合同委員会活動）

○一人一人を大切にしたい委員会活動

全校児童・生徒で取り組む「全校遊び」、「くろしお競技大会」などは、小中学生全員が楽しめるルールをくろしお役員会が考えて行っている。放送や図書の活動にも、一人一人にアンケートを配布するなど小中学生全員で取り組んでいる。



○一人一人の意見を反映させる目安箱の活用

学校をよりよくするために、小中学生全員の意見を集める目安箱を設置した。一つ一つの意見を大切に学校生活のことを話し合っ改善することができた。



全校合同学級活動

○小学校全校合同学級会

学年を越えた合同学級会を月に約1度継続的に行うことで、多様な考え方に触れながら、自分の意見を発表する機会を用意することができた。また、話し合い活動の基本的な進め方の理解も深まった。



○中学校全校合同学級活動

これまで行事に向けて、2学年合同の学級活動を行ってきたことに加え、今年度は中学校全学年合同で学級活動を行った。話し合い活動を通して、それぞれの考え方の相違などを感じ取ることができた。



カリキュラム・マネジメント

○年間指導計画の見直し

小学校・中学校ともに全教育課程から人権教育の関連性を見直し、全校で推進していく体制を整えた。

○高齢者の方々との交流

より多くの高齢者との交流を深めるために、運動会や学芸会のプログラムに児童・生徒からのメッセージを付けて村の敬老会の方々に直接届けに行った。また、オリンピック・パラリンピック教育と関連させ、ポッチャと一緒に体験し、島で昔から食べられていた食材を使った「交流給食」を行った。共通の話題ができ、高齢者との関わりを深めることができた。



御指導いただいた講師の先生方

東京都教育庁指導部	主任指導主事	土屋 秀人	先生
東京都教育庁指導部指導企画課	指導主事	河野 敏弘	先生
東京都教職員研修センター研修部教育開発課	指導主事	田中 圭	先生
東京都教育庁八丈出張所	指導主事	高瀬 隆太郎	先生

研究に携わった教員 ○研究主任

<小学校>	校長	川元 泰史							
	副校長	下川 耕史							
		○宮内 優香	大堀 健	久米 隆紀	蜂須賀 美菜	徳永 千夏			
<中学校>	副校長	池田 和幸							
		○土屋 孝博	高橋 崇紀	猪俣 裕紀	三浦 兼吾	青山 靖典			
		杉野 麻衣	松尾 麻耶	天野 竜太郎	鈴木 智恵	高橋 直純			